



NO.42 学校図書館
司書だより

2022年3月



本と読書

本は心の栄養

北野 智崇

【私と本】

あなたにとって本はどんな存在ですか。あなたは本が好きですか。あなたが感銘を受けた本は何ですか。これまでの人生で、そんな質問を何度か受けたことがある。

しかし、その答えは人それぞれであり、人からそれを聞いたところで、読書に対する自分の姿勢はきつと変わらない。本を読む人は、読むに値する理由があり、本を読まない人は、読むことに価値を感じないからである。だから、私は人に対して本を読めとは言わない。ただ、やっぱり本はいいものだと思う。

わくわくドキドキ胸が躍る本、キーンと心が切なくなる本、逆に、心が温かくなる本、頑張ろうという気持ちになれる本、新しい知見を得られる本、人の考え方や生き方に触れられる本、本の種類によって抱く思いは異なるが、読み終えた後には、何とも言えない幸せなひと時がある。私はそのひと時が好きだ。やっぱり本はいいものだと思う。

だから、私は一日数分であっても一人で本の世界に浸る営みをこれからも続けていきたい。

【図書館】

幼稚園児の頃から、母親と一緒に市の図書館へ足を運んだ。いつしか、一人で通うようになり、

高校生のときには休日や夏休みの多くを図書館で過ごすようになった本に囲まれたその空間

は、少し張り詰めた空気が漂い、心地よい静けさと本の匂いに包まれていた。今、私は自分だけの部屋をもっている。子ども部屋と比べると、三分の一程度の広さしかないL字型の小さな部屋だが、そこには自分の好きな本が所狭しと並んでいる。自分だけの図書館であり、そこで過ごす時間は至福のひと時である。

学校にも図書館がある。しかし、そこは家の図書館とは一味違う趣がある。そこにある本には歴史がある。学校の先生たちがみんなのために選んだ本であり、学校図書館司書の先生が貸出準備をして配架した本であり、その学校で過ごした多くの先輩たちが手にした本である。ひよっとしたらお父さ



んやお母さんも手にした本かもしれない。そんなことを少し考えながら手に取ってほしい。そして、そこからは一気に本の世界に飛び込んでほしい。どんな物語に出会うことができるか、どんな気持ちに出会うことができるかはあなた次第だ。

最後に少しだけ本を紹介して締めくくる。何気なく本棚を眺めながら、ふと蘇ってくる記憶が温かかったものを中心に……

「コロナ過で制約のある生活が長く続いている今だからこそ、ぜひ手に本を……」

『青空と逃げる』辻村深月 著

『糸』林 民生 著

『そして、バトンは渡された』瀬尾まいこ 著

『蜜蜂と遠雷』恩田陸 著

『神様のカルテ』夏川草介 著

『自律する子の育て方』工藤勇一・青砥瑞人 著

『スマホ脳』アンデシユハンセン 著

北野先生は、教育委員会から子どもたちを支えて下さっています。趣味は、ランニングと読書。二人の男の子のお父さんです。

☆図書館クイズ☆

学校図書館で大人気の「ふしぎ駄菓子屋銭天堂」には、毎回ふしぎなお菓子が登場します。読者が選ぶ駄菓子ランキングで、みごと1位に選ばれたお菓子はなんですか？

読書タイム

図書献立

図書献立は、「本が大好き、給食も大好きな子」がもっと増えてくれることを願って、平成二十六年十月からスタートしました。学校図書館司書の先生方のご協力をいただき、今年で八年目になります。第一回目は本は「きつねのホイテイ」。美濃加茂市の小学三年生の推薦図書で、多くの子どもたちが親しんだ本です。

子どもたちにとって、本の中の料理が食べられることは、ワクワクする気持ちが湧き、食べることをより一層楽しくしてくれます。そして苦手な食べ物でも「食べてみようかな。」というチャレンジに繋がっていきます。本が応援してくれます。給食センターでも、ワクワクしながら給食を作っています。

本の中でとってくる料理や食材は、時には奇想天外なものもあり、それが本と食との楽しい出会いでもあります。例えば、令和二年度二月の「ようかいりょうりばんつけ」という本の中には、妖怪にはおいしくて人間にはキシキシしてボロボロしたおいしくない豆腐が出てきます。この食材をどうやって図書献立として出していくか…。給食センターの栄養士三人で知恵をしぼり、「こもとう心」を使うことにしました。こもとう心とは、岐阜県飛騨



地方で昔から食べられている豆腐で、お盆やお正月に食べる「ちそうの」一つです。豆腐をこもとう心というわらで包んで煮ることで、小さな穴がたくさんでき、その穴に味がしみ込んで滋味深い料理になります。妖怪に人気だけども人間にはまずい豆腐として紹介するのは、こもとう心に申し訳ない気持ちもありました。飛騨地方の伝統の食材を紹介することができ、見た目が本の中のイメージに近いこと、そして給食で出す時には、おいしく食べてもらえること。これらのことから、こもとう心を『おまめやの豆腐汁』という料理名で出しました。子どもたちからは、「穴のあいた豆腐がおいしかった。」「お話が楽しかった。」という感想が聞かれました。

学校では図書献立の資料を掲示し、実施に合わせて読み聞かせをするなど、子どもたちの本と給食への興味関心を高めています。図書献立は、食を本の世界から広げること、本の世界を食から広げることができる楽しい給食です。これからも、学校の先生方や学校図書館司書の先生方とともに、子どもたちの心と体を満たす図書献立を続けていきたいと思っています。

『つるばら村の三日月屋さん』
茂市久美子 講談社 1540円



つるばら村のくるみさんは、念願のパン屋さんをオープンさせました。心のこもった美味しいパンは大人気！時々やってくる動物たちのリクエストに応じて少し変わったパンも焼いてくれます。あなたはどのパンを食べたくなるかしら。ぜひ読んでみてくださいね。



この本
読んでみて！

『梨の子ペリーナ イタリアのむかしばなし』
イカロ・カルヴィーノ/著 関口英子/訳 酒井駒子/絵
BL出版 1760円



ペリーナ(梨の子という意味)は、理不尽な目にあいながらも純真な心であり続けます。出会う不思議なものの達の苦しみを開放しながら、魔女の宝箱を手に入れて…。酒井駒子さんのうっとりしてしまう美しい絵と、強くしなやかなペリーナの姿に心打たれます。



『子どもを叱りつける親は失格ですか？』
アベ ナオミ/著 KADOKAWA 2020.4
図書館請求記号:367.3ア
請求番号:201548989



子どもを叱って怒りの連鎖。疲れますよね。“怒り”には仕組みがあり、その仕組みと、子どもの豆知識を知れば、マジ納得！漫画とコラムで、その対処の仕方までわかり易く書かれています。怒りの仕組みを知り、一つでも行動を変え、楽になりませんか。(大人にも利用可かも…)



『なみだの穴』 まはら三桃
小峰書店 1540円



“なみだの穴”は泣きたい気持ちをがまんしている人のところへ風によってやって来る。そのパワーは強力で、ちっぽけな人間の悲しみなんか掃除機みたいに吸い取ってくれるという。六つの短編に登場する主人公たちは、どんな思いを抱えているのか。“なみだの穴”と出逢ってどうなるのか？ぜひ、読んでみてね！



このコーナーで本を紹介しているのは、市内の学校図書館司書3人と東図書館司書です。

☆図書館クイズの答え☆虹色みずあめ(第4巻に登場!)
ちなみに2位は型ぬき人魚グミ(第1巻)
3位はホーンテッドアイス(第1巻) 公式HPより